「上毛新聞」文芸関連記事リスト【4】

大正15年(1926)4月～昭和2年(1927)3月

市川祥子

※「上毛新聞」の中から、小説・詩歌等の創作と、文芸に深く関わると考えられる評論とをリストアップした。今回は、大正15年(1926)4月から昭和2年(1927)3月を対象とした。

※①は第一面であることを、朝①は朝刊の第一面であることを、夕①は夕刊の第一面であることを示す。

※連載は初回のみを示し、( )に終了日と回数とを付した。

※(1)は第一回であることを示す。

※＊は判読が不能であることを示す。

大正15年(1926)4月

1日(木)

朝④夢　蓮根校尋六　師ゆき　〈コドモの国〉

2日(金)

朝③怪賊栄吉伝［小説］(1)　水島尺草　(～6月20日(59))

朝④粂の平内［講談］(1)　南海夢楽　(～11月19日(150))

3日(土)

朝③子供の天性とは何を意味するか　高島平三郎(談)

朝③夕暮集［短歌］　池田均

朝③お久に［詩］　俊二

夕②女文字捕物おぼえ　矢取り女(2)　橋場鮒刺　(～4月23日(18)〈(2)から確認〉)

6日(火)

夕③散歩［詩］　小板橋一雄

夕③映画小説　彼と彼女達(2)　(～5月12日(5)〈(2)から確認〉)

7日(水)

夕③春の夕べ　浅川英一様、同美喜子様に［詩］　柳芳太郎

夕④仙人の国［童話］(1)　清野喜代志　(～4月13日(5))

8日(木)

夕③題のない詩［詩］　丘瑠璃夫

夕③ハナミ［詩］　コボシ

9日(金)

夕③着物汚しても子供を叱るな　堀七蔵(談)

夕③うこん桜［詩］　柳芳太郎

10日(土)

夕③子供の作品は総て純情の表れ　中沢留吉(談)

夕③春　さぶらう、こや兄に［詩］　俊二

11日(日)

朝④祝歌　矢沢馨三

夕③童心歌の提唱　大槻三好

夕③早春［詩］　星野玻瑠男

夕③紺碧の空の下から(ある日の感想から)　丘瑠璃夫

夕③大学卒業者への宣言(その社会的使命に関する一考察)　佐藤政吉

夕③室町地獄(第一陰謀篇)(1)　柳俊三郎　〈(1)のみ確認〉

13日(火)

夕③桜の歌　万葉集と古今集に現れた歌のかず〳〵

夕③YOKOKAO［詩］　根岸美津子

14日(水)

夕③嘘つきの子供は母が作つて終ふ　小向喜美子(談)

夕③春怨［詩］　やすし

夕③飛行機の行方［童話］(1)　沢井章三　(～4月27日(10))

15日(木)

夕③われ等を生める日本をサゲスむな　山田

わか（談）
夕③来ぬがよい［詩］　市丸武二
16日（金）
夕③裏の小道［詩］　市丸武二
17日（土）
朝②露国文豪伊香保へ登山
夕③恪気［詩］　池田均
18日（日）
夕③上毛歌壇の変遷(1)　茂木近之助
（～9月5日(14)）
夕③青竹垣［短歌］　東林城
夕③辛夷の花［短歌］　久保田安治
夕③早春二題　或日正午より金山に遊ぶ［短歌］　森太貴樹
夕③早春の伊香保［短歌］　吉井忠男
夕③春冬雑詠［短歌］　中曽根白史
夕③芝根滝川玉村短歌会詠草　大沢雅休氏送別［短歌］　麦　内田嘉之作、内田由太郎、羽鳥武重、宮下安太郎、大沢雅休、掛川宗太郎、山田曲成、新井松枝、野口静江、小鮒千枝、勅使河原汀星、野口市郎、宮下菊次郎、倉田新三、辰巳赤女、川端刺青、梅沢周一、久保田瓜丁、萩原千代、内田ふじの
夕③春宵集［短歌］　橋本翠山、島田善次郎、藤原美恵、鈴木丈司、栗原春雄、若狭星之助、土屋栄雄、峰岸よしあき、田中梅史、天野穂草、宮下芳雄、清水もとみ、片桐落陽、星野玻瑠男、読み人不明、松村春美、中村春二
夕③雑詠［短歌］　六合冬子
20日（火）
夕③うき苦労［詩］　柳芳太郎
21日（水）
夕③花供養［詩］　茂木近之助
23日（金）
夕③小曲　ばらです［詩］　榎戸惇一
24日（土）
夕②女文字捕物おぼえ　高橋の死骸(1)　橋場鮒刺
（～5月12日(16)）
夕③子供本位の娯楽物を造れよ　三輪田元道（談）
夕③渦［詩］　ちかのすけ
25日（日）
夕③ソヴエート文壇の雄将ピリニヤク氏の印象(1)　石田喜代司
（～6月6日(4)）
夕③群馬県出身の故山村暮鳥氏建碑資金募集のこと　大関五郎
夕③「祇園島原」と其著者　大沢要
夕③春＝深夜［詩］　佐藤八郎
夕③春愁［短歌］　鈴木葦舟
夕③近頃の映心［短歌］　町田六合三
夕③春日に［短歌］　峰岸義秋
夕③このごろ［短歌］　板橋千恵子
27日（火）
夕③真の母性愛は生母の乳房から　吉岡弥生（談）
夕③春［詩］　中曽根白史
28日（水）
夕③児童は教育より見て親の専有物でない　奥藤多蔵（談）
夕③母［詩］　榎戸惇一
夕③宝物とお爺さん［童話］(1)　宵島俊吉
（～5月12日(10)）
夕③結婚生活雑感　生田花世
夕③急行列車［童謡］　まさはる
30日（金）
夕③「ひとり」　越後の海で［詩］　勝郎
夕③理想の婦人(1)　原田源次郎
（～5月1日(2)）
夕③日向ぼっこ［童謡］　伊香保校　梅津新太郎

大正15年（1926）5月

1日（土）
夕③潮風雑記(1)　勢多農林関西地方旅行部通信係　三ＡＨＮ
（～5月5日(2)）
2日（日）
夕③四月二十四日［短歌］　塚越麗一
夕③前橋写真展覧会に就て　芸術写真に対する日本写真会の態度　番祐也
夕③春［詩］　柳居晴二
夕③芸術祭を迎へて　大沢重夫
夕③小曲　芸術祭に寄す［詩］　梅津錦一
夕③私として　藤村行男
夕③芸術祭のひき札　ＫＹＯ・ＨＡＧＩＷＡＲ
4日（火）

夕③逝く春［短歌］　池田均

5日（水）

夕③なやみ　針谷しよ夫に［詩］　柳芳太郎

7日（金）

夕③愛が第一と云つた詩人に絡る話　五月に生れたブラウニング

8日（土）

夕③子供は此後の社会を動かす　高島平三郎（談）

夕③旅の寄せ書(3)　勢多農林関西地方旅行部通信係　三ＡＨＮ　（～5月11日(4)）

夕③逝く春　一年前の手記から［詩］　針谷しよを

9日（日）

朝④関西に於ける上州人(1)　ごろう　〈5月30日(6)まで確認〉

夕③短歌と言葉　大沢雅休

夕③漫画芸術祭　あきら、よし公

夕③作歌態度に就て二三の考察(1)　明石仲雄（～5月16日(2)）

夕③夜、街角［詩］　長谷川道

夕③山鳥の歌　大間々警察署長篠原滋一郎氏より山鳥を送られけるに［短歌］　東林城

夕③狂父を持てる汝［短歌］　六合冬子

夕③春雑詠［短歌］　三木蘭二郎

夕③丘にてるつき［詩］　榎戸惇一

夕③興隆期発刊に就いて　岡田刀水士

11日（火）

夕③バラの悩み［詩］　田中留松

13日（木）

夕②女文字捕物覚え　新徴組(1)　橋場鮒刺（～6月4日(20)）

夕③うはさ　針谷しよを兄に［詩］　伊藤俊吉

夕③月の明るい夜［童話］(1)　福田正夫（～5月15日(2)）

夕③旅の雑記(5)　勢多農林関西地方旅行部通信係　三ＡＨＮ　（～5月15日(7)）

14日（金）

夕③貧乏人の子供に不良少年は少い　高島平三郎（談）

15日（土）

夕③日本の主婦　科学知識が不足　嘉悦孝子（談）

夕③桜んぼ［詩］　柳芳太郎

16日（日）

夕③温和しい鳥類［詩］　新島栄治

夕③さくら貝［詩］　村山徳栄

夕③新野歓一氏の姿　柳芳太郎

夕③愛と死と（一幕）［戯曲］(1)　大野金治（～5月23日(2)）

18日（火）

朝②新緑の榛名(1)　青水　（～5月25日(5)）

夕③山の山羊［詩］　柳芳太郎

夕③狸の恩返し［童話］(1)　沢井章三（～5月22日(6)）

20日（木）

夕③初恋（小曲）［詩］　高橋与惣吉

21日（金）

夕③キンギョ［童謡］　マサジ

22日（土）

夕③知識が目的でない幼稚園の教育　堀七蔵（談）

夕③金魚［詩］　てる子

23日（日）

夕③民謡三篇　桐の花、背戸の畑さ、月［歌謡］　松崎仲雄

夕③思ひ出は捨てられた手風琴　八月の恋人に、西蔵の夢［詩］　嵯峨篤麿

夕③無事［詩］　柳芳太郎

夕③顔に祝福あれ　飯島貞

25日（火）

夕③よみち［詩］　三島れい一

夕③とんとん拍子のにせ武士［童話］(1)　長浦健　（～6月2日(8)）

26日（水）

夕③つくし　柳芳太郎、伊藤信吉両兄へ［詩］　しよを

夕③英、米、独に於ける幼児の教育(1)　東京女子高等師範　北沢教授（談）　（～5月29日(4)）

27日（木）

夕③抒情小曲　秘めし春［詩］　池田均

28日（金）

夕③秋の詩［詩］　角田葭夫

29日（土）

夕③母性の「愛の仕事」　斉藤知二（談）

30日（日）
夕③恋［詩］　生野初子　〈キネマ文芸〉

大正15年（1926）6月

1日（火）
夕③家庭教育を誤ると「ませた」子供になる　堀七蔵（談）
夕③灯取虫［詩］　川辺潤三郎

2日（水）
夕③夕やけ［童謡］　まさじ
夕③職業婦人数の示す生活難

3日（木）
夕③或る法学生の見たる恋愛と結婚(1)　蘇涯（～6月10日(6)）
夕③エレン・ケイの観た職業婦人問題　家庭婦人は生の木職業婦人は電信柱　山田わか子（談）
夕③小さい燕の死［童話］(1)　井上康文（～6月9日(5)）

4日（金）
夕③麦の穂［詩］　細井校　船津喜儀

5日（土）
夕②女文字捕物おぼえ　お作の幽霊(1)　橋場鮒刺（～6月20日(14)）
夕③所謂淳風美俗と社会的な悲劇　綿貫哲男（談）
夕③涙［詩］　芳太郎

6日（日）
夕③堤燈行列（砂時計短評）　斉藤総彦
夕③小供と詩人　橋本翠山
夕③萩町風景［詩］　菊沢茂
夕③深夜［詩］　畑ひろし
夕③口笛［詩］　川辺潤三郎
夕③夜霧［詩］　小野忠孝

9日（水）
夕③夕靄［詩］　翡翠子

10日（木）
夕③紅玉［童謡］　池田均
夕③お猿の大将［童話］(1)　井東憲（～6月16日(5)）

11日（金）
夕③子供の語学生活　天才児も教育から　小原国芳（談）
夕③涙［詩］　高橋金吉
夕③音楽といふ芸術(1)　東宮一雄（～6月12日(2)）

13日（日）
夕③詩の社会性　川路柳虹
夕③ふたつの詩集「自画像」清水暉吉氏著、「青い夢」岩崎武雄氏著　茂木
夕③いたづら　柳芳太郎
夕③自働車詩［詩］　前原美春
夕③孤独、青空、雪端山景、白樺林、朝蜻蛉、春日抒情［詩］　村上義信
夕③まひる、青葉の岡［詩］　林与志雄
夕③みやま短歌会　須藤泰一郎氏を迎へて［記事］　植村祐三／［短歌］　須藤泰一郎、石井仏子、塩野荀三、高橋赤城、阿久津白蛾、勅使河原洒落、大竹正美、見城貫一、大竹好太郎、真庭歌庭、窪田由紀衛、植村美津子、植村祐三

15日（火）
夕③児童遊園には指導者を撰べ　米田ますめ（談）
夕③小曲　星［詩］　八雲恵美子〈キネマ文芸〉

16日（水）
朝④東北の旅(1)　茂木　〈(1)のみ確認〉
夕③童心歌三つ［詩］　大槻三好

17日（木）
夕③お化御殿［童話］(1)　清野喜代志（～6月23日(5)）
夕③朝顔［童謡］　まさじ

18日（金）
夕③ひるの雨［詩］　松崎南華緒

19日（土）
夕②初夏の湘南めぐり(1)　北甘閑人（～6月23日(4)）
夕③世の子供には親を撰ぶ権利あり　小原国芳（談）
夕③かねたゝき［詩］　芳太郎

20日（日）
夕③農民詩の提唱　渋谷栄一
夕③お艶ケ岩附近［詩］　菊沢茂
夕③光路社の集りと持寄歌［短歌］　小幡三千夫、大野きんぢ、若穂緑、関寛、須田衛、明石仲雄、阿久沢狭星、矢島貞治、柳芳太郎、松井美丸、小野里照親、藤橋定行、新井香渓、栗原春雄、町田六合三、

清水峰江、神沢金夫、温井義信
夕③博多の帯　豊島治子
夕③顔の発刊に就いて　松崎仲雄
夕③讃龍膽　其他［短歌］　沈丁花、浅春の空、ふるさとの家、山羊、しづえにおくる　久保田安治

22日（火）
朝③前橋夜話［小説］(1)　水村
〈6月27日(5)まで確認〉
夕③男が偉いか女が偉いか　大江東京家政学院長（談）
夕③忍ぶ身は［詩］　芳太郎

23日（水）
朝③女文字捕物おぼえ　心中片助け(1)　橋場鮒刺
（〜7月18日(18)）
夕③月見草［詩］　古谷野茂登子

24日（木）
朝④富士見の句会［俳句］　当り矢、玉兎、句念坊、赤帽子、東天紅、赤陽子、仲春、兵城、見外、粹月
夕③現代の文化が果して優等か　伊藤忠太郎（談）
夕③るすゐ［詩］　下川淵校尋四　井上なみ
夕③黄金の鶏［童話］(1)　楠田敏郎
（〜7月2日(7)）

25日（金）
朝③沼の秘密　大胡千貫沼の伝説(1)
（〜7月15日(11)）
夕②日光より　北甘閑人
夕③小学校の成績では賢愚は不明　富士川游（談）
夕③土筆社詠草［短歌］　長井時雄、杉本日出夫、竹内誌芸留、大塚秀雄、山川為次郎、木村清、黒田花水、中村春三

26日（土）
夕③上毛詩壇［詩］　飯島貞（選）　愁心　津路春己／試験、公園の銅像　茂木信太郎

27日（日）
夕③顔［詩］　芳太郎
夕③故郷往来歌篇　此の一聯を古里の友におくる［短歌］　大沢雅休
夕③浅間四題［詩］　川辺潤三郎
夕③薬用葡萄酒　バーリー、ペーン作　大沢要訳
夕③白痴の横槍　常住欽策
夕③女学生雑詩［詩］(1)　童謡をきく。、オルガン独奏。　浅川英一
夕③消燈［詩］　後藤八重子
夕③野茨の花　森千魁君に、波志江沼風景［詩］横堀真太郎
夕③自然讃美［詩］　高山要
夕③夕の空［詩］　福田喜久治
夕③雨の日は空し［詩］　畑ひろし

29日（火）
夕③夢の起因(1)　大戸徹誠
（〜7月13日〈回数不明〉）

30日（水）
夕③消えゆく恋［詩］　やすし
夕③花の苗は観守るが人の苗我子の学校には無関心だ　小原国芳（談）

大正15年（1926）7月

1日（木）
夕③支那民謡　大連にて［歌謡］(1)　断髪令（民国初年）、纏足せざる娘を罵り　佐藤政吉

2日（金）
夕③支那民謡［歌謡］(2)　活吏を唄ふ　佐藤政吉

3日（土）
夕③あめ［詩］　長こう
夕③真の婦人運動は　農村から起る機運　田島ひで子（談）
夕③四匹の音楽家［童話］(1)　一色洋之介
（〜7月9日(5)）

4日（日）
夕③自画像の会　浦野芳雄
夕③悲しい雨の音　追悼老社長［短歌］　正木辰雄
夕③紅い日傘　松崎仲雄
夕③女学生雑詩［詩］(2)　前高女生。　浅川英一
夕③逆潮　塚越麗一
夕③片恋［詩］　小野里照親
夕③陰に咲く黒薔薇　吉屋信子様　笛木哀之介

6日（火）
朝③故篠原先生の追憶　最上政三

夕③なみだ雨［詩］　柳芳太郎

7日（水）

朝③故篠原先生の追憶　野条愛助

夕③一般家庭婦人は無駄使はせぬ　山田わか子（談）

8日（木）

朝④赤城山吟行［俳句］　北海、玉兎、雀童、赤陽子、仲春

夕③勿忘草［詩］　やすし

夕③映画と社会教育　高島米峰（談）

9日（金）

朝④武尊山礼讃(1)　戸田進　（～7月14日(4)）

夕③医学上から見た性病の史的考察(1)　土居慶蔵（述）　（～7月13日〈回数不明〉）

10日（土）

夕③はつなつの唄［詩］　池田均

夕③ほたる［童謡］　こうふう

夕③酒飲の歌人旅人卿の歌

夕③夢とバスケット［童話］(1)　茶谷八郎　（～7月16日(5)）

11日（日）

夕③民衆芸術としての演劇の価値　佐藤春夫

夕③白藤の岡［短歌］　藤岡林城

夕③桐の葉［詩］　天野静子

夕③常住兄に答ふ　横堀真太郎

夕③高草木暮風氏に遇ふ　大槻三好

夕③若葉の頃［短歌］　鳩の湯にて、勿忘草　田中涼葉

13日（火）

夕①前橋十景(1)　松崎南華緒、柳芳太郎、佐藤康、茂木近之助、須田安治、野口雨情、岸本　（～7月28日(10)）

14日（水）

夕③ひまはり［詩］　やなぎ

夕③子供とお花畑(1)　菅原岩夫　上和田英樹　（～8月5日〈回数不明〉）

15日（木）

夕②街頭漂泊の音楽詩人

夕③花あやめ［詩］　やなぎ

夕③心＊的に観た修養の極致　奥藤文学士（談）

16日（金）

朝④軍隊生活　予備兵の手記(1)　泉太郎　（～8月15日(21)）

17日（土）

夕③子供の交友関係と同性愛の危険　倉橋惣三（談）

夕③雲をつかむやうな話［童話］(1)　平野止夫　（～8月3日(11)）

夕③水仙［詩］　やなぎ

18日（日）

夕③大衆文芸の条件　本間久雄

夕③若芽社洋画展の感想　新野歓一

夕③萩小路にて［短歌］　石川竹緒

夕③女学生雑詩［詩］(3)　活花、牡丹、丘の草　浅川英一

夕③踊る浮世絵［詩］　塩野筍三

夕③死棺の恋［詩］　畑広治

20日（火）

朝③誉れの太刀風　香雨先生の青年時代(1)　正木水村　〈9月17日(34)まで確認〉

夕②女文字捕物おぼえ　検校の金針(1)　橋場鮒刺　（～8月6日(15)）

夕③きしき（ママ）［童謡］　まさじ

夕③木の葉［詩］　細井校　藤井トヨ

21日（水）

夕③おたより［詩］　やなぎ

22日（木）

夕③ひなげし［詩］　やなぎ

23日（金）

夕③アネモネ［詩］　やなぎ

夕③アマガヘル［詩］　中室田校　ミキコ

24日（土）

夕③ダリヤ［詩］　中室田校　中島須磨子

25日（日）

夕③銀の懐中時計(1)　八斗島蝶　（～8月1日(2)）

夕③しどめの花［短歌］　栗原春雄

夕③光路社短歌会［記事］　松村／［短歌］　菊池義苗、植村祐三、小野里照親、神沢金夫、明石仲雄、町田六合三、永井柳葉、藤橋定蔵、若穂緑、白石亨太郎、小沢義太郎、須田衛、小幡三千夫

夕③群馬県師範学校短歌大会［記事］　松村／［短歌］　須藤泰一郎、斉藤遊雲、中野信治、大野福寿、松村春美、阿部四郎、斉藤雁夫、清水基夫、小林新次、金井清、

石崎量太郎、今井輔一
夕③遠足の日［短歌］松本かず緒
夕③温泉場［詩］梅津泰助
夕③あらくさ短唱［詩］つゆくさ、のびる
松本良三
夕③桐の雨、夜［詩］中島雨郷
夕③凝視［詩］仁恵
夕③なみだ［詩］津智谷芳夫
夕③河辺のよし［詩］村山徳栄
夕③街角で［詩］丘辺草一楼
夕③失ひし友情［詩］原順子

26日（月）
朝②那須温泉から［俳句］北甘閑人

27日（火）
夕③童心歌［詩］島之郷校尋五　戸崎イネ
夕③人類としての子供の権利(1)　三田谷博士（談）（～7月28日(2)）

29日（木）
夕③乙女の唱ふ［詩］沢田白花
夕③子供の音楽と舞踊　中沢時彦（談）

30日（金）
夕③現今の女子教育(1)　春山帝大教授（述）〈(1)のみ確認〉
夕③童心歌［詩］島之郷校　戸崎イネ

大正15年（1926）8月

1日（日）
朝④ふよう会五句集［俳句］句念坊、玉兎、赤陽子、仲春、不昧、鳴月、粹月
夕③土を深く耕せ(1)　藤岡林城
夕③徳田秋声氏の近作二篇(1)　浦野芳雄（～8月15日(2)）（～8月22日(2)）

3日（火）
夕③夕ぐれ［詩］室田校尋五　関玉枝
夕③木花咲耶姫と生花の由来　小野崎歌子（談）

4日（水）
夕②伊香保より［漢詩］星野斗北
夕③片思ひ［詩］柳まさ子
夕③曲馬団の子［童話］(1)　井上康文（～8月11日(7)）

5日（木）
夕①〈一日一話〉ガレドレット恒子（談）

6日（金）
夕③グループを作る子供の生活　倉橋惣三（談）
夕③岡島艶子［詩］よしを〈キネマ文芸〉

7日（土）
夕②女文字捕物おぼえ　加納の徳姫　橋場鮒刺（～8月25日(18)）
夕③栗林［詩］中室田校　清水文枝

8日（日）
夕③民謡二篇（県庁の土手堀崩しに寄せて）［歌謡］針谷しよを
夕③虹の橋［童謡］すみ子

11日（水）
夕③医学上の知識がお母さんに必要　高橋平三郎（談）
夕③空のお話　附、林間七夕祭のこと　やなぎ

12日（木）
朝③南アルプスへ(1)　静岡高等学校二年生大島五郎（～9月15日(23)）
夕③初生児は完全に一昼夜は眠る（ママ）　吉岡弥生（談）
夕③由喜尾［詩］狩野喜代忠
夕③子供の昇天［童話］(1)　楠田敏郎（～8月25日(10)）
夕③英ゆり子［詩］よしを〈キネマ文芸〉

15日（日）
夕③夜店雑感［短歌］(1)　中島雨郷〈(1)のみ確認〉
夕③ねむの花［短歌］須藤泰一郎
夕③夜の蜻蛉［短歌］吉井忠男
夕③新しい芽ばえ「影を歩む」読後感　下田惟直

17日（火）
夕③花片の柩衣［詩］嵯峨篤麿

18日（水）
夕③母から生まれる子供の人格　大江東京家政女学校長（談）

19日（木）
夕③芸術上に於ける音楽、舞踊、詩の関係(1)　舘山甲午（～8月26日(7)）

21日（土）
夕③トマト畑［詩］渡辺春子

22日（日）
夕③病院のある風景　散文詩らしきもの［詩］

上田えいじ
夕③墓穴、黙って歩るく男［詩］　柳居青児
夕③暴風［詩］　榎田薫
夕③文化、野にて［詩］　岡部卯一郎
夕③足萎の馬［短歌］　茂木近之助
夕③托鉢の心［短歌］　邦冬子
夕③雑唱［短歌］　原順子
夕③故里に帰りて［短歌］(1)　土屋栄雄
〈(1)のみ確認〉
夕③病める母［短歌］　志水琴音
夕③湖南の旅より［短歌］(1)　清水もとみ
〈(1)のみ確認〉
夕③夏の色［短歌］　北爪豊
夕③宝玉集［短歌］　林まさる、米倉文二、登丸一雄、浜名宏、小川きい知

23日（月）
朝②草津温泉から　武藤金吉

24日（火）
夕③垣根の朝顔［詩］　柳芳太郎

25日（水）
朝④小山行(1)　大橋　（～8月26日(2)）

26日（木）
夕②女文字捕物おぼえ　朱房の十手(1)　橋場鮒刺　（～9月15日(17)）
夕③憬れは多い米国学生気質　小林喜三郎（談）
夕③蟻と蚤の富士登山［童話］(1)　若穂緑　（～9月2日(4)）

27日（金）
夕③男世帯［詩］　柳芳太郎

29日（日）
夕③百日紅や［俳句］　村上鬼城
夕③土を耕しつつ(1)　高橋平三郎　（～10月3日(4)）
夕③女相撲［小説］(1)　村上徳栄　（～10月17日(5)）
夕③あれは真紅な薔薇のよだ［詩］　ロバートバーンス作　清水房之丞訳
夕③栄光の夏に語る詩［詩］　飯島勇
夕③自炊の夕飯　同じ生活の柳芳太郎兄に贈る［詩］　横堀真太郎

31日（火）
夕③緑の山［詩］　花和白泉

大正15年（1926）9月

2日（木）
朝④ふよふ会の句会［俳句］　雨声、赤陽子、美正、登山、如泉、不昧、見外、玉兎、青雲、静友、静河、春光、月光、仲春、粹月、聖陽、句念坊、仙松、白萩、東天紅
夕③子供の勉強先づ親が範を示せ　小原国芳（談）

3日（金）
朝②社会苦と性の衝動　廃娼の沿革などを(1)　（～9月7日(4)）
夕③木馬と小鳩［童話］(1)　榎田敏郎　（～9月11日(7)）

4日（土）
夕③人口の都市集中と児童の体質　渡辺医学博士（談）

5日（日）
夕③大島航行詩草［詩］　水くみ娘、三原山眺望　堺明平に、ばった、椿の実　清水房之丞
夕③幽情傷心［短歌］　中村元治
夕③磯部遊行抄［短歌］　植村祐三
夕③夏日詠草［短歌］　中曽根白史
夕③秋の野［短歌］　丘辺草一楼
夕③ごぜさま［短歌］　浜名宏

7日（火）
夕③昔［詩］　長＊

8日（水）
夕②草津より　武藤金吉
夕③子供と活動写真(1)　東宮一雄　（～9月9日(2)）

10日（金）
夕③男女性格の差異は内分泌の作用　西郷司（談）
夕③とんぼ［童謡］　すみ子

11日（土）
夕③規則的生活が乳児の一生を支配す　吉岡弥生（談）
夕③子供とお花畑　上和田英樹（談）

12日（日）
夕③三峰安居会の記　神沢金夫
夕③小幡を訪ふ［短歌］　田島武夫
夕③若芽社碓氷洋画会合同展出品作に就いて

新野歓一
夕③秋［短歌］小板橋美之
夕③男、一匹　湯浅氏に送る［詩］温井藤衛
夕③嵐［詩］橋爪榛泉
夕③晴夜［詩］榎田薫
夕③田植唄、青い光［詩］小野里照親
夕③馬は嘶く［詩］狩野聖護

14日（火）
夕③傷痕　わたしの夢へ［詩］芳太郎
夕③斉藤始雄氏著「水彩画教授の理論及実際」を読んで(1)（～9月15日(2)）
夕③それからどうした［童話］(1)　山本雅樹（～9月24日(9)）

16日（木）
朝④国木田独歩氏の遺子虎雄氏と語る
夕②女文字捕物おぼえ　五百両の質(1)　橋場鮒刺（～10月4日(14)）
夕③子供とお花畑（続）須賀原岩夫　上和田英樹
〈翌年2月4日まで確認、回数不明〉

17日（金）
夕②今年も太田へ　松堂翁の思出(1)　正木（～9月19日(3)）
夕③ためらひ［詩］島田嘉七〈キネマ文芸〉

19日（日）
夕③父と子と其の子(1)　東宮七男（～11月14日(6)）
夕③余影追慕　辻庸郎君の追悼会に臨みて　白石享太郎
夕③遺稿［短歌］辻庸郎
夕③網打鶏頭［短歌］温井義信
夕③新秋雑詠、故村上成之先生を憶ふ［短歌］田島武夫
夕③田舎の秋、十六夜の月［詩］菊沢茂
夕③私は夢みた［詩］ロバートバーンズ作　清水房之丞訳
夕③月の出の思慕　中村京子に贈る記念す、その続篇［詩］フリハタタルホ

21日（火）
夕③家庭のみで出来る不良少年の感化　東京青年審判所長（談）

22日（水）
朝①戦国秘史　血で血を洗ふ時代［小説］(1)　高橋掬太郎（～翌年7月12日(243)）
夕③絵日傘［詩］梅村蓉子〈キネマ文芸〉
夕③前借制度を止めねば人身売買は絶へぬ　廓清会委員長　松宮弥平（談）
夕③京の夢　岡島艶子

23日（木）
夕③教へるに非ずして自然に覚へる　教育は母に始まる　富士川游（談）

24日（金）
夕③子供を不良扱にしたがる親達
夕③華道の話(1)　狩野華城（談）〈11月12日(4)まで確認〉

26日（日）
夕②白露も［俳句］芭蕉
夕③なげき（市丸武二兄に）、茶碗酒［詩］柳芳太郎
夕③梢緑社慢語　加藤光造
夕③青い夢の著者と私　南大樹
夕③秋の場面［詩］飯島勇
夕③鈴蘭街　若人よ青春を讃へよ［詩］高橋加津夫
夕③温泉場風景［詩］岡部卯一郎
夕③哀愁の秋［詩］畑山夢子
夕③散歩［詩］市村京之助
夕③初秋の丘［詩］円明閑馬

28日（火）
夕③実行仕難い孟母の三遷主義　倉橋惣三（談）
夕③二匹のポチの話［童話］(1)　沢井章三（～10月2日(5)）

29日（水）
夕③トンと利用されない児童相談所　三田谷啓（談）

大正15年（1926）10月

1日（金）
夕②千六百の中から選んだこどもの作品　敬神思想を含む綴方童謡和歌俳句を本県神職会募集成績

3日（日）
夕③犬［詩］菊沢茂
夕③純情のさ迷ふ朝［詩］谷玲児
夕③流転の後影　樺太にて　中曽根白史
夕③短冊展のこと　須藤泰一郎
夕③師範短歌大会(1)［記事］松村／［短歌］

須藤泰一郎、半田時之進、斉藤遊雲、明石仲雄、関口定雄、阿久沢宇吉、松村春美、小板橋覚、小林卓蔵、中野信治

夕③湯島温泉行 稚友石田惣三君と共に遊ぶ［短歌］ 植村祐三

夕③時折りの歌［短歌］ 植村美津子

夕③生の歌［短歌］ 田島武夫

夕③挽歌［短歌］ 小野里照親

夕③山家の秋［短歌］ 松本かずを

夕③蚕飼［短歌］ 小板橋幸

5日（火）

夕③酒井米子 よしを　〈キネマ文芸〉

夕③金の山銀の山［童話］(1) 楠田敏郎（～10月16日⑩）

6日（水）

夕③馬鹿の定義は注意力の不足 富士川游（談）

夕③うつゝ心［詩］ 柳芳太郎

8日（金）

夕③冬生れは低脳が多く秀才は春生れ 小原国芳（談）

10日（日）

夕③知人漫索 小須田薫

夕③断片［詩］ 榎田薫

夕③挽歌［短歌］ 故暮路京之助氏を偲ぶ、故老松館松鶴を偲ぶ、故きし児次女三歳にて逝く 南大樹

夕③断片語 横地正次郎

夕③師範短歌大会［短歌］(2) 神沢金夫、大崎福司、根岸千里、木村冉、梅津元雄、阿部四郎、清水基美、茂木信太郎、坂上安太郎、中島仁恵、大崎歳市、池田左善、清水梅雄、市村末男、石黒量太郎、宮下守胤、金井清、小林新次、中野信治

夕③秋の小曲 横堀真太郎氏に［詩］ 丘辺草一

夕③夜［詩］ 柳居青児

夕③別れ［詩］ 泉町子

夕③落ちろおちろ［詩］ 橋爪榛泉

12日（火）

夕③何故地方農村の子供が丈夫か 富士川游（談）

夕③娘小唄［詩］ 柳芳太郎

夕③お月様［童謡］ すみ子

13日（水）

朝④ふよう会の句会［俳句］ 小華、赤陽子、静丸、吉雄、柳橋、如友、陽水、当り矢、静河、翠巌、仲春、華春、喜笑、見外、白雨、春光、粋月、句念坊、風琴、静丸、玉兎

15日（金）

夕③徳川良子 よしを　〈キネマ文芸〉

16日（土）

夕③秋の日や［俳句］ 鬼貫

17日（日）

夕③秋空のもと［短歌］ 須藤泰一郎

夕③土盛る吾児［短歌］ 鈴木葦舟

夕③金蓮華八号所感(1) 飯島勇

夕③秋もくれたに［詩］ 針谷章三（～10月31日(2)）

夕③感想断片［詩］ 羽鳥健男

夕③益子徳三氏の民謡集「豆の葉」を読んで 柳芳太郎

19日（火）

夕③凡児も馬鹿抜せず子供の才智を煽るな 東京性能診査所 松井銓寿（談）

夕③ポチの夢［童話］(1) 泉しほじ（～10月21日(3)）

20日（水）

夕③婦人の社会運動は母性愛の延長 守屋東（談）

夕③涙の都［詩］ 柳芳太郎

夕③犬と猫［童謡］ すみ子

21日（木）

朝④東北の旅より 杉本八代

夕③遠足や散歩の秋 子供の心と自然 倉橋惣三（談）

22日（金）

夕③夜の出来事［童話］(1) 畑喜代司（～10月29日(5)）

24日（日）

夕③十月の感想 塩野筍三

夕③山にかへる［短歌］ 小幡三千夫

夕③わらべと遊ぶ歌［短歌］ 田島武夫

夕③個性会詠草［記事］ 葦舟／［短歌］ 山崎よしを、市川たかし、真下祐行、亀井かずを、登丸丑太、関根松泉、鈴木葦舟

夕③朗な午前の純情（群馬県保育会印象記）［詩］天野静子
夕③今や西風が［詩］ロバートバアンス作　清水房之丞訳
夕③九月の空［詩］横堀真太郎
夕③白雲 柳兄におくる［詩］森千魁
夕③秋の花片［詩］丘辺草一
夕③夕月夜、芒、夕日、［詩］針谷章次
夕③葬列［詩］市川玲児
夕③秋の嘆き 島岡利二様に、狐ごっこ［詩］柳芳太郎

26日（火）
夕③退屈（小林与詩緒氏の為に贈）［詩］高橋加津夫
夕③国民は真に自覚して禁酒を励行せよ　沢柳政太郎（談）

28日（木）
夕③三輪田氏の丙午迷信打破論(1)（～11月1日(2)）

29日（金）
夕③川田芳子　よしを　〈キネマ文芸〉

30日（土）
夕③母を尋ねて［童話］(1)　茶谷八郎（～11月9日(7)）

31日（日）
夕③冬近く［短歌］石川竹緒
夕③羽鳥健男氏の「感想断片」に付て(1)　石光謙（～11月7日(2)）
夕③光路歌会詠草［記事］金夫／［短歌］窪田由紀衛、福島四郎、温井武治、池田柏葉、斉藤春枝、若穂緑、須田衛、新井香湲、新川八重子、小野里照親
夕③電話［詩］大関五郎
夕③夜更の月［詩］菊沢茂
夕③独房の窓、鞘をはらつた業物［詩］横堀真太郎
夕③序詩［詩］フリハタタルホ
夕③こども［詩］山村靖
夕③朝草刈り［詩］中島雨郷
夕③絵日傘、汽車待つ人［詩］豊島治子

大正15年（1924）11月

2日（火）
朝③白菊の［俳句］芭蕉

3日（水）
朝③菊作り［俳句］蕪村
夕②白菊や［俳句］蕪村
夕③親の職業と社会性を子供に理解させよ　倉橋惣三（談）

4日（木）
夕③婦人問題の核心は婦人特性の涵養　田中鄭次（談）

5日（金）
夕③夢と恋［詩］栗島澄子　〈キネマ文芸〉

6日（土）
朝③九州の旅より　毛洲
夕③赤チャンに就て 若夫婦への注意　吉岡弥生（談）
夕③社会と没交渉な箱入娘を作るな　倉橋惣三（談）

7日（日）
夕③私のことども　塚本茂
夕③評家飯島氏に　金蓮華編輯子 内田嘉城
夕③武井はる子氏をしのびて　高橋平三郎
夕③ふしぎな肉体［詩］横堀真太郎
夕③花火と花煙 柳芳太郎兄に［詩］丘辺草一
夕③雨の夕［詩］橋爪榛泉
夕③長髪［詩］田島嘉之
夕③無題［詩］岡部なみじ
夕③十一月の詩［詩］菊池光四次
夕③小出河原、子持山［詩］川辺潤三郎
夕③別れた女［詩］針谷しよを

9日（火）
夕③思ひひそかに［詩］中島雨郷
夕②九州の旅から(1)　毛洲（～11月10日(2)）
夕③現代の女学生は宗教的に覚醒　市川源三（談）
夕③秋［詩］柳芳太郎
夕③兵隊［童謡］すみ子

10日（水）
夕③雨の日［詩］筑波雪子　〈キネマ文芸〉
夕③人魚の願ひ［童話］(1)　進藤泡影（～11月17日(6)）

11日（木）
夕②鳥取温泉にて　毛洲
夕③伏魔御殿［小説］(1)　西村清一

（〜翌年5月10日(150)）

夕③経済的不安時代と日本婦人の覚悟　嘉悦孝子（談）

12日（金）

朝③冬枯や［俳句］芭蕉

夕②天の橋立にて　毛州

夕③学校では優等児でも馬鹿者がある　富士川游（談）

夕③いなご［詩］柳芳太郎

13日（土）

朝③広島より　井本常作

14日（日）

夕③愚者漫言　敢て石光謙氏に　羽鳥健男

夕③立秋［短歌］松本一夫

夕③初秋［短歌］浜名宏

夕③秋雨情［短歌］小板橋幸

夕③この頃のこと　東山光子

夕③月夜に踊れ、秋色［詩］横堀真太郎

夕③沈黙の祚（ママ）り［詩］丘るり夫

夕③曽祖母訃［詩］森千魁

夕③頭髪［詩］前原美春

夕③祭日の空と友達［詩］岡部卯一郎

夕③秋の心中［詩］高山要

夕③秋の映象［詩］尾内たつ緒

夕③青年詩人［詩］飯島勇

17日（水）

夕②水鳥を［俳句］蕪村

夕③修身教育は価値的人格的に見直せ　論理的立場からする根本観念の改革意見　紀平正美（談）

18日（木）

夕③お猿と驢馬［童話］(1)　十菱愛彦（〜11月30日(8)）

21日（日）

朝③前橋での一日　川口準太郎

夕③忙時余筆　久保田安治

夕③憂鬱な散歩［詩］フリハタルホ

夕③ポプラ画会を観る　加藤素次

夕③爐の火、ふゆ［詩］土屋与志緒

夕③冬が来る［詩］岡田湊

夕③「愚者漫言」を読んで　羽鳥健男君に　観念

夕③粕川村個性会短歌会(1)［記事］葦舟／［短歌］空　青柳花明、藤岡林城、鈴木葦舟、鈴木千代子、渡辺藤波、赤木馬彦、市川たかし、関根松泉、沢良路、白幡宗順、斉藤喜蔵、森定治、登山武夫、山崎義男、笠原保郎、登丸丈太、大沢きよ、登丸富子、真下祐行、阿久津好孝〈(1)のみ確認〉

夕③生方春子氏追悼短歌会［記事］植村祐三／［短歌］追悼歌　植村祐三、植村美津子、高橋平三郎、阿久津白蛾、勅使河原洒落、横山青蛙、真庭歌庭、大竹正美、青山丈夫、塩野筍三、見城貫一、窪田由紀衛、戸部久一、船津重雄

23日（火）

夕②木枯や［俳句］蕪村

夕③撮影の帰り［詩］水谷八重子〈キネマ文芸〉

25日（木）

朝③野大根［俳句］一茶

夕②里ふりに［俳句］芭蕉

夕②詩化した村に　川口準太郎

夕③予算を立てるには簡単本位　嘉悦孝子（談）

夕③社会事業としての治療の機会均等　田代義徳（談）

26日（金）

夕③雪が降る［詩］市丸武二

夕③げん気［童謡］すみ子

27日（土）

夕③夕月［詩］柳芳太郎

夕③教育上子供を差別するな　倉橋惣三（談）

30日（火）

夕③公式的訓練に依つて意志は教育さる　富士川游（談）

大正15年（1926）12月

1日（水）

夕③秋が逝く［詩］桜井長幸

夕③日曜の罰［童話］(1)　十菱愛彦（〜12月14日(10)）

2日（木）

夕③待人［詩］市丸武二

夕③吾子と夫［短歌］原阿佐緒、若山喜志子

3日（金）

朝③人ちらり［俳句］　一茶

4日（土）

夕②風一陣［俳句］　蕪村

夕③現実性を離れて真の教育はない　倉橋惣三（談）

5日（日）

夕②古桐新絃　緒言　琴荘老人

夕③自己への思索(1)　大出湧二（～12月19日(3)）

夕③浜に倚せて［詩］　高橋加津二

夕③親に、秋［詩］　飯島勇

夕③緑りの朝風　高橋元吉先生に［詩］　岡部宇一郎

夕③夕暮［詩］　明石木味男

夕③祭の日［短歌］　三島涼葉

夕③追悼会の夜　真庭武

夕③除隊の歌［短歌］　榎田薫

夕③山の秋［短歌］　峡路泉之助

夕③原市町短歌会［記事］　吉岡一峰／［短歌］　吉岡一峰、新井古仙、中島菊代、浦野久子、富田順、真下たつ代、半田巌、佐藤いさむ、真下政雄、小板橋幸

夕③女のひとりごと(2)　東山光子〈(2)のみ確認〉

7日（火）

夕②古桐新絃(1)　琴荘老人（～12月12日(5)）

夕③恋と思ひ出［詩］　柳さく子〈キネマ文芸〉

8日（水）

夕②暮の都から　川口準太郎

夕③僕にも出来るとの自信を与へよ　小原国芳（談）

夕③原市潮俳句会［記事］　古仙／［俳句］　枯野、茶の花　古仙、一峰、修雪、俊光、笑旭、昇石、松風、美水、東峰、白蘭、松風、葉仙、秀夫、風月、牙城、牛山、貝仙

9日（木）

夕③タマのむくろ　石坂さんに捧ぐる［詩］　桜井長幸

夕③雪の両国［詩］

10日（金）

夕③山の灯［詩］　柳芳太郎

12日（日）

夕③衝動より概念へ　高島米峰、秋田雨雀の両君へ与ふ　高山巌

夕③情欲の正体［詩］　菊沢茂

夕③つゝみ紙(1)　原静枝（～12月19日(2)）

夕③衿り［詩］　富野辰夫

夕③生活余情［短歌］　町田六合三

夕③今井の里［短歌］　松本かず緒

夕③原市野菊支社歌会詠草［記事］　竹史／［短歌］　半田巌、富田順、小板橋幸、吉岡一峰、真下たつ代、浦野久子、中島菊代、新井古仙、真下政雄、山中清

13日（月）

朝③高崎聯隊今昔観(1)　茂木隆吉（～12月19日(5)）

14日（火）

夕③柿の実［詩］　のり子

夕③恋ごころ［詩］　阪東妻三郎〈キネマ文芸〉

15日（水）

夕③家庭教育から観た母の一日の仕事　倉橋惣三（談）

夕③亡き兄さん［詩］　生田登志夫

夕③幻の塔［童話］(1)　坂井比良助（～12月18日(4)）

16日（木）

夕③華道の話　狩野華城

17日（金）

夕③新しがる者よ先づ国家の歴史を知れ　藤岡継平（談）

18日（土）

夕③初春を待つ［詩］　市丸武二

夕③お夏清十郎を観て　KS

19日（日）

夕③ムービーランド(1)　田中愁二（～12月25日(3)）

夕③落葉焚く頃［短歌］　雨宮塔吉

夕③冬潜抄［短歌］　田野滴露

夕③海浜雑詠［短歌］　田島武夫

夕③秋の頃［詩］　赤石木味男

夕③てありそうな詩、詩人根性［詩］　上田えいじ

夕③途上［詩］　原順子

夕③色調的感情　処女のある夕空追想［詩］

畑山夢子

21日（火）

夕③迷子の雷［童話］畑喜代司

22日（水）

夕③石に化けたむじな［童話］(1) 端山銀作（～翌年1月12日(5)）

23日（木）

夕③ぢり〳〵と［短歌］啄木

夕③気まぐれ小唄［詩］柳芳太郎

24日（金）

夕③十五年度の映画界を省みて(1) KS（～12月25日(2)）

昭和元年（1926）12月

26日（日）

④魚雁往来 ふるさとの友にささぐ［短歌］大沢雅休

④閑日。 榎田薫

④年増女 奈加村春二

④「寂しい跫音」を評す 横堀真太郎

④山猫の踊り［詩］梅津泰助

④冬の夜街［詩］室咲晃二

④大根洗ひ［詩］吉岡一峰

④林間即興［詩］森千魁

④時の流れに 横堀真太郎及び森千魁に呈す［詩］フリハタタルホ

④芒原を歩く［詩］岡田湊

④湯上り湯殿で［詩］針谷しよを

④「明治大帝に咫尺し奉りて」を読む 中村武羅夫

昭和2年（1927）1月

1日（土）

③和気洽昌辰［書］中村不折

⑤凍傷の川辺［詩］菊沢茂

⑤歌留多の記憶［小説］吉井勇

⑥幼児は他行きに育てず一本気に育てゝ欲しい 森島前橋幼稚園長（談）

⑥折にあへば［短歌］北村季文

⑥［綴方］おとした手袋 桃井校尋六 坂野とき、兄さんの手紙 同尋四 矢野三郎、うちのこねこ 額部校尋三 岡田良一／［詩］うさぎ 岩平校尋三 武藤たけ、畠のおぢいさん 小幡校尋三 関口万作、じどうしや 福島校尋三 茂木幾夫、黒いかげ 桃井校尋三 沼田よし、はねつき 同尋三 河辺君江、かぜ 同尋二 野崎みつ江〈コドモノクニ〉

⑦古歌礼讃 須藤泰一郎

⑦海の息子（父が私にかう言つた）［詩］田辺耕一郎

⑦初荷船［俳句］巌谷小波

⑦わが君は［短歌］吉井勇

⑦国府の里［短歌］(1) 藤岡林城（～1月23日(3)）

⑦早春孤詠［短歌］赤木馬彦

⑦回顧十年の春［短歌］鈴木葦舟

⑦小春日和［短歌］森太喜治

⑦新らしき酒 島岡利二

⑦泥鰌売（或る短篇の一節） 大沢雅休

⑧大智大勇［小説］白石実三

⑨兎語録 温知道人

⑬混沌不安の思想界 統一と救済は常に国史の精神によれ 遠藤隆吉（談）

⑬見る人の［短歌］与謝野寛

⑰予の長寿法 渋沢栄一（談）

⑰一忍不成［書］徳富蘇峰

㉓国定忠次 初春の出入り［講談］松翠軒円雄（演）

3日（月）

②正月を［書］河東碧梧桐

③民衆の先達として「理想」の詩を歌ふ 詩人の真使命を思ふ 前橋高女校長 丹沢美助（談）

③凧きのふ［俳句］蕪村

5日（水）

②朋回自山陰［書］田山花袋

③諒闇の新年［俳句］高橋東

7日（金）

夕③風の日に［詩］金谷種子〈キネマ文芸〉

夕③銀の兎 朝鮮の伝説［童話］(1)（～1月11日(3)）

8日（土）

朝④大行天皇崩御と子供等の心理 中沢留吉（談）

夕②人間苦［小説］(1) 柳芳太郎、須田芳香、久保清、松崎仲雄、茂木近之助、高畑弘男、水村、佐藤康（～1月27日(15)）

9日（日）

夕③我が詩論　降旗足穂
夕③女の独言　原静枝
夕③北風と草［詩］　清水房之丞
夕③深夜の蜘蛛［詩］　菊沢茂
夕③伊香保の秋［詩］　橋爪榛泉
夕③吹雪の窓［詩］　岡田湊
夕③諒闇の春［短歌］　阿部鳩雨
夕③林城に贈る　国分寺趾、妙見寺、福守様、雑詠［短歌］　住谷三郎
夕③冬より春へ［短歌］　田島武夫

10日（月）
③奇人岡田竹四郎(1)　城山隠士（～1月13日(4)）
③江原小弥太氏を迎ふ　前橋人文倶楽部　竹内亀松

11日（火）
夕③縁側日向［詩］　針谷しよを

12日（水）
夕②伊豆より　岡部栄信
夕③眼に見るは［短歌］

13日（木）
夕③赤城山［詩］　柳芳太郎
夕③智識欲に燃へる子供の学科教育　倉橋惣三（談）
夕③怜悧い鳥［童話］(1)　十菱愛彦（～1月21日(7)）

14日（金）
朝②海上風静［書］　佐々木信綱
夕③玩具の世界は自由平等である　有坂与太郎（談）
夕③昨日の夕方［綴方］　小幡校高二　松浦愛作

15日（土）
朝③新しき［書］　窪田空穂
夕③妙な馬鹿を作る生活実感なき教育　倉橋惣三（談）
夕③はつはる［詩］　柳芳太郎
夕③子を思ふ［詩］　英ゆり子〈キネマ文芸〉

16日（日）
朝④東方史観に於ける日本民族精神　鷲尾順敬（談）
夕③新文学運動の範囲　浦野芳雄
夕③病床の詩［詩］　横堀真太郎
夕③春日漫談　思ひつくまゝ　辰巳赤夫
夕③上毛の詩人に［詩］　降旗足穂
夕③除夜の鐘（或長篇の一節）　小板橋一雄
夕③蕗を摸りて［短歌］　円明閑馬
夕③中村元治氏の歌集くゞゐの歌
夕③金蓮華短歌会［短歌］　藤岡林城、久保田安治、南大樹、野口市郎、町田六合三、河原楽二、内田嘉城、菊池義苗、松井岩居、山岡利志、須山藤重郎、岩上芙蓉子、岡部宇一郎、久保田清吉、村中篁、小幡三千夫、鈴木秀水、井野春香、桑原城仙、岩上千秋、増村秀子、渋沢要、田島よしの、須田まち、田島春海、新井省三

18日（火）
夕③食物価値の開拓について(1)　龍田みつ（～1月29日(10)）

19日（水）
夕③忘らるゝ［短歌］
夕③獅子舞ひの［短歌］

20日（木）
夕③春［詩］　市丸武二

22日（土）
朝④お人形が結ぶ国際的の友誼　東京三越玩具部　中野鉄太郎（談）
夕③酷寒に生れる初生児の手当(1)　吉岡弥生（談）（～1月25日(2)）
夕③人寿保全句百五十首［短歌］(1)　自然（天寿百歳）　無為庵子槐（～2月5日(4)）
夕③幽霊船物語［童話］(1)　宵島俊吉（～2月4日(10)）

23日（日）
夕③人麿歌集歌愚見(1)　住谷槇彦〈(1)のみ確認〉
夕③神流川［短歌］　須田衛
夕③とある駅て（ママ）［詩］　赤木淳太郎
夕③ひ江び江する雨［詩］　佐藤八郎
夕③春光［詩］　松浦喜久次
夕③「鬼城句集」を読む(1)　田島武夫（～1月30日(2)）
夕③上毛短歌会高点詠草［短歌］　大沢雅休、横山良輔、町田六合三、小鮒千枝、藤岡林城、高橋平三郎、中川一郎、鈴木葦舟
夕③光路新年号を読みて　小幡三千夫
夕④群盲を率ゐて［小説］(1)　吉井勇

（～8月26日(203)）

24日（月）

朝③太平楽語(1)　和田邦夫　（～1月25日(2)）

25日（火）

夕②通俗修養十訓　岡部栄信

夕③かへり咲き［詩］　玉木悦子

〈キネマ文芸〉

26日（水）

夕③成績不良の原因は不健康と家庭にある　吉田貫一（談）

夕③野焼［詩］　堀田しげる

夕③オママゴト［綴方］　桃井校尋一　関口良子

夕③酒を出す［詩］　小野校尋五　上田隆治

夕③恋をする［短歌］　晶子

27日（木）

朝④東洋画のほこり　気韻と生動にある　瀧精一（談）

28日（金）

夕③水を飲んでも暮す覚悟が必要　嘉悦孝子（談）

夕③恋ざめ［詩］　市丸武二

29日（土）

夕③なげき［短歌］　沢蘭子　〈キネマ文芸〉

30日（日）

夕③氷河の進行、歌集「春蘭」出版のこと、上毛人　大沢雅休

夕③爺さんの歌［短歌］　岡田房樹

夕③藤田君を訪ふ(1)　原田源次郎　（～3月6日(5)）

夕③十一月の林へ行かう［詩］　鈴本つるの

夕③前橋の女性の方へ　原静枝

夕③雑詠［短歌］　新井古仙

夕③こだま私抄［短歌］　雨宮塔吉（選）　清水信、永瀬英一、糸井川園一、外山真一、夕川紅影、石橋兄介、小川投水、大塚欣一、石原直郎、栗原啓二郎、西村尚夫、岡田房樹

昭和2年（1927）2月

1日（火）

夕②探偵小説　足跡［小説］(1)　斉藤総彦　〈2月13日(9)まで確認〉

夕③三島詣で［詩］　柳芳太郎

夕③キネマ都々逸　夢太郎

2日（水）

夕③親達も子供になつて夜の団らんに交はれ　一家団欒は詩ではない　子供と遊ぶことの意義　倉橋惣三（談）

夕③ハワイ帰りの小波おぢさんの壮年時代の家庭小話を記します　やなぎ

夕③朝［短歌］　若山牧水

3日（木）

夕③二人集［短歌］　栗島すみ、川田よし　〈キネマ文芸〉

5日（土）

朝④現代人の学ぶべき支那仏教精神　常磐大定（談）

夕③あづさゆみ［短歌］　良寛

夕③奉悼歌［歌］

夕③不思議な乞食［童話］(1)　十菱愛彦　（～2月19日(7)）

6日（日）

夕③落葉　島岡利二

夕③掌上集録　降旗足穂

夕③寒い風景［詩］　菊沢茂

夕③芸術研究会　みゝず社主催［記事］　要／［短歌］　星野正男、小見可憐、北町妙子、石井くめ、高山要、下田和、落名、高山松江、岡部竹風、高山貞雄、大友武子、古屋三郎、荒井可憐、星野雅峰、小黒日露、星野亦陽子、中山輝月、金子宗作、船津きくえ、桑島葉子

夕③ふくろふ　加藤光造

夕③師範校短歌会［記事］　中野／［短歌］　須藤泰一郎、斉藤遊雲、角田恒、松村春美、大崎福司、大竹正夫、小板橋覚、清水基美、木村清、土屋与志緒、松井美丸

夕③原市野菊支社歌会詠草［記事］　一峰／［短歌］　中島菊代、浦野久子、吉岡一郎、富田順、新井古仙、佐藤噫佐夢、半田巌、真下たつ代、小板橋幸、小森谷霞村、田村庸、斉藤春夫、竹内茂、栗原幸三、茂木信太郎、中野信治

夕③近詠十句［俳句］　植村婉外

7日（月）

⑥御大喪の国民道徳的意義　吉田熊次郎（談）

⑥御大喪の話　上野竹次郎（談）
⑥兼好小論　井上不路子
⑥働く教育を子弟にほどこせ　藤井利誉（談）
8日（火）
朝③御大喪儀に就て　藤岡継平（談）
朝③至純の心の現れ　崩御を嘆いた古歌　哀憐極りなき女性の歌
朝③劇的な由来　誄歌の解説
10日（木）
夕①葬場殿の盛儀に参列して(1)　篠原蕭々（～2月11日(2)）
夕③近代の女性には理解力が必要　田中鄭次（談）
夕③西洋と日本の舞踊　谷崎潤一郎
11日（金）
朝④教育上から見た幼年雑誌の効果　東郷区根津尋常小学校長　川井立（談）
夕③因襲の生活から創造の生活へ　井上秀子
夕③わたしでも［詩］　おと女
夕③石井君の家　沢田謙
夕③雪ばれの［短歌］
13日（日）
朝④美しい学校生活と家庭との連絡　小向喜美子（談）
夕③浅間しぐれ、糸とり、峠を越えて［詩］　茂木近之助
夕③春愁［詩］　高橋加津二
夕③疲れた風景［詩］　市村京之助
夕③没落の夕［詩］　岡田湊
夕③かゝる日に［詩］　加藤素
夕③便り［詩］　堀田しげる
夕③詐欺師［詩］　小野忠孝
夕③朝の散歩［詩］　岡部宇一郎
夕③結婚雑感　辰巳赤夫
夕③歩む　篠原ひで緒
夕③雲催ひ空［短歌］　中曽根白史
夕③駅頭思情［短歌］　田島武夫
夕③馬瘠す［短歌］　鈴木葦舟
夕③淡雪、折々の歌［短歌］　榎田薫
夕③いたつき［短歌］　石川竹緒
夕③友訪ひて［短歌］　吉岡一峰
夕③妹［短歌］　土屋栄雄
15日（火）
夕③英傑ナポレオンが必勝の大秘訣　小原国芳（談）
夕③はかなき恋［詩］　西条香代子
〈キネマ文芸〉
16日（水）
朝④現代教育の根本的欠陥　山内雄太郎（談）
夕②現代の青年よ新聞雑誌に学べ　永井柳太郎（談）
夕③奉悼歌［短歌］　与謝野晶子
夕③いふところのモダン的風潮　山田わか子（談）
夕③夕雨は［短歌］
17日（木）
夕③しあわせ［詩］　市丸武二
夕③華道の話(1)　狩野華城（～2月18日(2)）
18日（金）
夕③始めて親となつた両親と教育法　小原国芳（談）
19日（土）
夕③子供は剛健さと共に情操を陶冶せよ　児童芸術協会　中沢時彦（談）
夕③冷えぬこと　吉岡弥生（談）
夕③雨の夜の恋［短歌］　田中絹代
〈キネマ文芸〉
20日（日）
夕③おほみはふりの道、その後［短歌］　久保田安治
夕③病床雑感　病床、清水房之丞　横堀真太郎
夕③五篇の記　種ちゃんの死、父の死、詩集・押花、叙情詩誌「影」、「街」のお話　伊藤信吉
夕③旅二篇［詩］　高橋加津二
夕③与作爺さんと孫　榎田薫
夕③塔発刊に就て　茂木近之助
22日（火）
夕③如何なるものが真の体育法か　二木医学博士（談）
夕③生活との文学と絶対境　松浦一
夕③鳴雪一周忌［俳句］　鳴雪
夕③美しい国［童話］(1)　山本雅樹（～3月1日(6)）
23日（水）
夕③家庭生活の合理合法化　塚本はま子（談）
夕③雪三題［短歌］　島木赤彦、土岐哀果、小

高美代
夕③学齢の愛児を持たれる御家庭へ　倉橋惣三（談）
夕③落椿［詩］　大槻三好
24日（木）
夕③春を待つ［詩］　柳芳太郎
25日（金）
夕③厳粛且つ神聖なる性生活の戒め(1)　永井潜（談）　（～2月26日(2)）
夕③伊香保だより［詩］　市丸武二
26日（土）
朝④家庭婦人に待つべき台処経済生活　高比良医学博士（談）
夕③私の口語歌［詩］　島之郷校尋五　武田三衛
27日（日）
夕③鶴見山荘歌話　西村陽吉
夕③椿［詩］　大槻三好
夕③立春雑筆　清水信
夕③群馬の新短歌　主として大槻三好に就て　永瀬英一
夕③新短歌の躍進　高草木暮風
夕③十三人集［短歌］　岡田房樹、埴生華児、岡田美奈登、西場登旭、西村尚夫、野口彦衛、荒海明子、今井登、大塚欣一、大島英子、栗原ひで子、金子賢、森下重男
28日（月）
③燈台もと暗し　土地の人が其土地のよい景色を自覚せぬものが多いは遺憾　国府種徳（談）

昭和2年（1927）3月
1日（火）
夕③おさよ［詩］　小板橋幸
2日（水）
夕③不思議と不思議［童話］(1)　松本苦未　（～3月4日(3)）
3日（木）
夕②子供等の為に「お話祭」が欲しい　西洋ではグリム祭やアンダアセン祭　児童芸術協会　中沢理事（談）
夕③家庭での智育は先づ読んで聞かせよ　小原国芳（談）
夕③あわ雪（いかほ小唄）［歌謡］　市丸武二
夕③夢のなかにも［短歌］　浦辺粂子　〈キネマ文芸〉
4日（金）
夕②捕物夜話　怪盗猫綺談［小説］(1)　ふさひこ・さいとう　（～4月1日(20)）
夕③早教育の問題　遠藤隆吉（談）
夕③春の芽［詩］　世良田校　村岡しげ
夕③川原［詩］　世良田校　剣持より
夕③竹やぶ［詩］　世良田校　高柳きみ
夕③星［詩］　世良田校　谷川駒子
夕③不成績　浮浪は堕落の第一歩　見逃せぬ映画の悪影響　嫌ひな子供一人もなし　植田たま代（談）
5日（土）
夕③荘ちやん漂流記［童話］(1)　金子光晴　〈3月19日(9)まで確認〉
6日（日）
夕③ウニルズの近業「クリスオールドの世界」　根岸時雍（ママ）
夕③きさらぎ抄［短歌］　新居の友に、新婚の友に、微恙　神沢金夫
夕③按摩笛、お浪［詩］　堀河はくあ
夕③短歌の民衆化　榎田薫
夕③動く雲［詩］　赤木淳太郎
夕③寸感雑記　鈴木葦舟
夕③みやま社短歌大会記［記事］　植村祐三／［短歌］　須藤泰一郎、藤岡林城、竹之内菊松、青山丈夫、古屋耶真士、池田広二、勅使河原蛍草、福井黎二、大沢雅休、赤木馬彦、大竹正美、内田嘉城、阿部鳩雨、植村祐三、横山良輔
8日（火）
夕③我国に急を要する児童保護機関　三田谷啓（談）
9日（水）
朝④倹約と云ふ言葉は何を意味する　嘉悦孝子（談）
夕③田園は国家の基礎である　三輪田元道（談）
夕③お人形［詩］　野口雨情
夕③試験に落ちても悲観をするな　内藤治（談）
10日（木）
夕③私娼制度雑考　特に芸妓酌婦に就て(1)

中村元治　（～3月26日(11)）
夕③酒なき国　罪なき国に　守屋東（談）
12日（土）
朝③婦人相談所相愛館開館に際して　中村社会課長（談）
夕②陳情十苦　北甘閑人
夕③生母乳を与へられぬ母体の諸疾病　吉岡弥生（談）
13日（日）
夕③古歌礼讃（続）　須藤泰一郎
夕③人生の凝視と文学　吉田絃二郎
夕③無題［詩］　降旗足穂
夕③私［詩］　高橋加津二
夕③春の夜［詩］　岡田湊
夕③出発の朝［詩］　中島満之助
夕③白梅集［短歌］　移居近詠　梅沢周一、新芽は光る　辰巳女赤、牡丹　橋本翠山、雑詠　星野玻璃男、寥々山荘近詠　植村祐三、土に親しみ　小野里照親、母を懐ふ　永井春歓、追郷　柏雫、春の眺め　福田久喜治、病院にて　松村春美、生活断章　船井善文、雑詠　山本兼吉、K子へ送る　藤倉肇
夕③みゝず短歌会詠草［記事］　高山要／［短歌］　船津見外、古屋三郎、船津きくえ、桑島信子、高山まつえ、金子宗作、失せん、大友武子、小見梅寿、原丘児、古屋栄吉、石平竹舟、高野葉、大友賢、中山輝月、高山隅之助、小黒日露、萩原けん三、小見可憐
14日（月）
③興国の気運　前橋修養会に於て(1)　久留島武彦（談）　（～3月21日(8)）
15日（火）
夕③禁酒の歌　賀川豊彦氏作の「国の危難を忘るゝは」
夕③親の酒精中毒が不良少年を作る　警視庁金子技師（談）
夕③［詩］　沢蘭子　〈キネマ文芸〉
18日（金）
夕③与志緒短章［詩］(1)　別後　土屋与志緒
夕③若い女性を中心にして結婚への条件(1)　竹内茂代（談）　（～3月19日(2)）
19日（土）
夕③与志緒短章［詩］(2)　細紐　土屋与志緒
20日（日）
夕③藤淵忠一氏編輯の「民謡自選集」を読む　益子徳三
夕③土地の所有［詩］　渋谷栄一
夕③短歌の人々　倉田春造
夕③春寒独語　若穂緑
夕③樺太行歌抄［短歌］　中曽根白史
夕③雪の日五章［詩］　東山光子
夕③榎田薫君に答ふ　神沢金夫
23日（水）
夕③与志緒短章［詩］(3)　悩み　土屋与志緒
夕③錫の兵隊［童話］(1)　畑喜代司　（～3月29日(5)）
24日（木）
夕③湯けむり［詩］　市丸武二
25日（金）
朝④高崎聯隊を待つ旅順(1)　津久井光造　（～3月31日(5)）
朝④四面楚歌声裡より(1)　須藤泰一郎　（～3月26日(2)）
夕③みちしるべ［詩］　柳芳太郎
26日（土）
朝④支那革命運動　その将来は謎である　川口準太郎
夕③その昔［短歌］　松山浪子　〈キネマ文芸〉
27日（日）
夕③農民文芸会　大沢雅休
夕③赤城ふもと、百姓の娘、あれは誰やら［詩］　益子徳三
夕③父を刻む　深沼弘胤
夕③梢緑社漫語　加藤素
夕③原稿用紙（散文詩らしいもの）、兵隊と郷愁［詩］　上田えいじ
夕③光路歌会詠草［記事］　三千夫／［短歌］　小沢義太郎、温井武治、土屋与志緒、温井義信、神沢金夫、田中三郎、窪田由紀衛、若穂緑、須田衛、森山玻瑠子、福田比露子、鈴木嘉納女／樹　土屋与志緒、須田衛、神沢金夫、明石仲雄、若穂緑、温井義信、温井義治、小幡三千夫、小沢義太郎
夕③女・二題　きよう。たけい

29日（火）

夕③たよりぐらひは　芳さまへ［詩］　市丸武二

夕③学齢期に際した児童への親の態度　東京本郷第一幼稚園野小向（談）

夕③日本でも早く高級玩具が必要　三越玩具部　中野主任（談）

夕③私共の慈善音楽会について　上毛マンドリン倶楽部

30日（水）

夕③小蛇の案内［童話］(1)　楠田敏郎（～4月6日(6)）

夕③原こま子［短歌］　よしを〈キネマ文芸〉

31日（木）

夕③草に寄す　武二兄へ御挨拶［詩］　柳芳太郎

夕③健康で聡明な児童を作るには　東京市社会局　渡辺医学博士（談）